

新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

高体連 新潟県総合体育大会 登山大会報告

長岡工業高校 新保雅稔

守門岳を会場とした標記大会が平成8年6月3日～5日(2泊3日)の日程で開催された。コースは入広瀬村大原から袴岳・大岳・保久礼小屋・道院を経て栃尾市栃堀に至るものである。

春季大会や総体一次予選の参加者が年々減少してきていることから参加者が少ないのではないかと心配したが、男子27チーム(うちオープン参加1チーム)、女子10チーム(うちオープン参加2チーム)の141名が参加。監督・役員・サポーターの生徒を含めると、総計203名の参加であった。

大会初日(6月3日)、長岡高等学校で開会式を終えたあたりから雲行きが怪しくなってきた。荒天は予想していたものの、せめて幕営後の雨であってほしいと祈る気持ちであった。予定通りバスは関越国際スキー場のロッジ前に到着。すでに審査は始まっており、選手達は緊張の1ピッチ

目を本日の幕営地に向けスタートした。1週間前の事前踏査

の段階で、幕営地のレストハウス前には1m×1m50cmの積雪があり、テント場の割り振りに頭を痛めた。残るならタップリと残ってほしい、消えるならサッパリと消えてほしい、そんな願いだったが、この1週間の陽気は、心配した幕営地の雪を一部に泥濘を残しながらもほぼ完全に消してしまった。

幕営地到着後、ポツポツと雨が当たる中、吉田審査委員長から今後の審査について、続いて杉本運営委員長から幕営地利用についての説明があった。その後、選手達は天気図作成の1名を除く3名でテント設置審査に入った。

民宿「大原」では顧問会議が行われ、今後の行動詳細を連絡。また、本日三ノ芝までルート工作に出かけた長岡商業高校の稲田先生からコースの最新の概要が説明された。天気図によると、今晚から

明朝にかけて寒冷前線の通過が必至で、かなりの荒れ模様予想された。案の定、午後8時を回ったあたりから、少しずつ雨足が強くなり雷鳴が鳴り響いた。

今回の幕営地は場所によっては小さな川になり得る。いくらテントに防水の工夫を凝らしても川のように流れ込めば防ぎようがない。このような大会では選手自らテントサイトを選択できないため、与えられた場所で浸水したとすれば大いに不満であろう。さらに「防水対策が甘い」の一言で片づけられるとあっては些か酷な話である。幕営地の指定に関しては最後まで頭を痛めた。

午前2時頃、突風と豪雨に襲われる。つぶされるテントもあるかもしれないと心配し様子を観っていたが、さすがに鍛えられてきた選手達だけあって、バタバタとフライシートを叩く風雨の中、特に慌てる様子もなく静まり返っていた。

大会2日目(6月4日)は雨のスタートとなった。多少出発を遅らせてはどうかとの意見もあったが、予定通り5

時半出発。風こそないものの雨は依然として降っている。雪崩の痕も生々しい林道を登山口へと向かう。三ノ芝までの急登に備える意味でこの最初の1ピッチのペース配分は重要であり、各班の班長は気を使うところである。登山口からエデシまでは急登のうえ道も悪い。おまけに無風で、雨具にメインザックではかなり応えたことだろう。エデシからの稜線は夏道が出ており特に問題ないが、このあたりでペースを崩すチームが出始めた。三ノ芝手前の急登から残雪が現れる。このあたりから濃いガスに覆われ、時折視界が5m以下になることもあり、標識の旗竿をベタに打っていく。昨日のうちにステック切りを終えておいたおかげでルートファインディングに集中できた。三ノ芝の雪渓で雪上技術の審査が行われる。雪はさほど硬くないが、メインザックを背負ってのキックステップは余裕がないとかなりつらく、評価に差の出るところである。運営本部より刻々と気象情報が伝えられる。快方に向かっているもの今日いっぱい雨のことであっ

た。長岡市・十日町市・見附市などのアマチュア無線局からの激励と、時折覗く青空に希望が湧くが、濃いガスと雨は袴岳を過ぎて延々と続いた。

昼食予定の青雲でも冷たい西風が雨とともに容赦なく吹き付け、おまけに相界もなく、大休止もつらいものとなった。

慣れたチームはツェルトなどを利用して雨を避けているが、雨ざらしのまま行動食すら口にできず、ただだまって出発を待つチームもあった。やはり経験がモノを言う世界なのだろう。

しかし、このような状況の中でも、リタイヤはほんの数パーティーで、それも自力で歩を進めており、頼もしい限りだ。

大岳を経て、一路保久礼へと下る。雪上での下りは、歩行の良し悪しが一目瞭然。雪上歩行が不慣れなパーティーにとってはつらい下りとなった。

さらにキビタキ小屋付近からは中途半端に残った雪と泥との格闘となった。あれだけの泥濘を歩いてきたにも関わらず、全く雨具が汚れていないパーティーがいくつか見

受けられた。相当山に入っており山慣れた様子である。疲れは保久礼に到着してもまだ、道院までは長い林道歩きが待っている。黙々と道院を目指すしかない。疲れた身体にコンクリート舗装の林道が追い打ちをかける。

最終パーティーの女子隊が道院へついたのは夕刻6時近くになってからである。夕闇の中、テント設営を終え炊事に入る。全身ズブ濡れの選手も多く、コンロの音がありがたく感じられたことだろう。

審査員はこれから集計作業に入る。その後協議が行われ、大方の結果が判明するのは、消灯時間を大きく過ぎた頃である。単に結果を出すのみでなく、選手達への今後の指導も含めて議論されるので、最後まで気が抜けない。県大会の審査員は誠にハードなスケジュールを強いられるのである。

大会3日目(6月5日)は、前日の悪天が嘘のように晴れ渡り、大岳から袴岳がハッキリと視認できた。新緑の山が眩しく光る。道院荘前の駐車場で各班の指導講評が行われ、各審査員より細やかなアドバイ

スが与えられた。その後、バス乗車のため栃堀まで移動。既に審査は終わっており、緊張も解けたのか選手達に笑顔が戻る。心地よい谷風が吹き上げる木漏れ日の中を、栃堀までは1時間強の行程だ。

長岡高等学校で閉会式。藤田登山部委員長、吉田審査委員長の講評が行われ、大会を閉じた。

最優秀校及び優秀校は以下の通り。

【男子最優秀校】
三条工業高等学校
六日町高等学校
新潟高等学校

【女子最優秀校】
新発田高等学校
巻高等学校
新津高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

最後になりましたが本大会運営に関して御理解御協力を頂いた栃尾市並びに入広瀬村関係諸機関および関係各氏、また悪天の中、常に安心感を与えてくれた看護婦の大川さんに感謝し大会報告とさせていただきます。

朝には20台以上になっている。県内ナンバーは3台、他は県外ナンバーである。福島、仙台、栃木、横浜、練馬、山梨、富山等々。団体グループを追い越すには1ピッチ休憩時当たりには1ピッチ休むに登山が続くだろうと、急いで支度をして15分遅れで出発する。

5時20分もう懐中電灯を必要としない時間である。足元の登山道もしっかり見える。初めてのコースなので緊張感が漂っている。観察もしなければと思うが足が前へ前へと進み、景色を楽しむことが出来ない。まだ西の空に名月が綺麗に輝いている。遭難碑、銀の道との合流点、大明神小屋と過ぎ、ピークの三等三角点で休憩に入る団体グループに追い付く。25分はまずまずのペース。時間も早いので先へ進む。

アキノキリンソウ、リンドウ、モミジカラマツなどの数少ない花々が紅葉前の登山道を彩っている。左側奥只見湖になる付近は窪地状態になっていて、雲海が荒沢岳の支稜線を越えて下へ下へ流れて行く。時間の経過に連れて奥只見湖を覆っている雲海全体が下へ

【男子優秀校】
六日町高等学校
新潟高等学校

【女子優秀校】
新発田高等学校
巻高等学校
新津高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

【女子優秀校】
新潟中央高等学校
六日町高等学校
小千谷高等学校

秋の駒ヶ岳

長岡ハイキングクラブ

杉本敏

中秋の名月を枝折峠で眺める。団子を持って来なかったが酒飲みには不要なものだから、堪忍なお月さんに謝る。名月に乾杯して一人車中泊する。

一晩中車が登って来る。ライト、エンジン音は気にならないうが、ドアの開閉音で眠りを妨げられる。明るさにビッ

降り立つ。ザワザワして出発準備を始めたので各自家用車で睡眠中の登山者が皆起き出す。夜3台しかなかった車が

朝には20台以上になっている。県内ナンバーは3台、他は県外ナンバーである。福島、仙台、栃木、横浜、練馬、山梨、富山等々。団体グループを追い越すには1ピッチ休憩時当たりには1ピッチ休むに登山が続くだろうと、急いで支度をして15分遅れで出発する。

5時20分もう懐中電灯を必要としない時間である。足元の登山道もしっかり見える。初めてのコースなので緊張感が漂っている。観察もしなければと思うが足が前へ前へと進み、景色を楽しむことが出来ない。まだ西の空に名月が綺麗に輝いている。遭難碑、銀の道との合流点、大明神小屋と過ぎ、ピークの三等三角点で休憩に入る団体グループに追い付く。25分はまずまずのペース。時間も早いので先へ進む。

アキノキリンソウ、リンドウ、モミジカラマツなどの数少ない花々が紅葉前の登山道を彩っている。左側奥只見湖になる付近は窪地状態になっていて、雲海が荒沢岳の支稜線を越えて下へ下へ流れて行く。時間の経過に連れて奥只見湖を覆っている雲海全体が下へ

絶対に恥ずかしいから何かじゃないからな。ちくしょう。でも、全国のおつわもの達ばかりと迷いも無く「楽しかったです」と答えるんだろうな、嘘も無く。

真面目に現在のことを書くのと、部員は10人足らずだが今日はとりあえず皆楽しくやっていると。言ってみれば少数精鋭なのだ。

部長は2年生の女。副部長は同じく2年生の男。だが、自分はそれではない。でもな、自分で自分がこのようなものを書いているのさ。うくん謎だ。

謎と言えば今、この県の登山人口が急激に減ってきているらしい。しかし、一方でアウトドアブームはまだ続いているという。矛盾だ。謎だ。パラドックスだ。などとあわてることは無い。ようはキャンプだけして、山には登らないのさ。

ここで強く訴えたいのは、外に出ることがアウトドアではなく、自然と一体化する事がアウトドアなのだ。ここで「アウトドア」という英語の意味は野外だ。とつこんだ人、英語嫌いの自分にそんなこと

言っても無駄なのだ。とりあえず、今、山を登っている人はいつまでも登り続けてほしい。そして他の人も登山のすばらしさを教えてあげて欲しいと思う。

今後の長岡大手登山部の活動を言っておくと、10月の某日に標高2141Mの平ガ岳に3年生の送別登山として登ります。その後は3月の春山登山まで大きな活動はなしと言った感じです。

なんだかいろいろ書いて来たけど一体何を書いたんだろう。うくんまた謎だ。まあそれもまた良いとして自分をよく知る人達へ。山を登っている様子と書いていることが全く違ふぞと思われたでしょう。自分でもそう思うんだ。でも、心に思っている事が直ぐ体に出るほど人間の生動物は単純じゃ無いんだ。もしそうだったらこの世の中に「うそ発見機」なる物は存在しなかつたらう。逆に言えばこんなことを書いていても本当は何を考えているかはだれにも分からないって事だ。

取り留めも無く書いてきたけど部の紹介ではなく、ほとんど随筆になってしまったが

一応これで終わらさして頂きます。登山よ永遠なれ。

南極だより8号

越冬隊員
片桐 一夫

(1996・9・26ドーム基地 F.A.X発)

ドーム基地では、8月18日に太陽が再登場して1カ月余り、今では日本の夏よりも太陽の恩恵が長く受けられます。深夜12時でも南の空は(雪原線)明るさがあり、月も満月に近づきつつあり、すでにオーロラの世界は終わったかのようです。10月半ばになりますと今度は太陽が沈まない世界に入ります。8月20日頃、

「転がる太陽」の撮影に挑戦しましたが、カメラにヒーターを巻いたにも関わらず、マイナス70℃を下回る寒さにカメラのシャッターが凍結してしまい、撮影失敗に終わりました。10月の「沈まぬ太陽」撮影に再度挑戦します。さて、今日は全天に全く雲のない快晴で仕事(掘削早番で14時30分まで)が終わった時、隊員が持ち込んだノルディックスキーを借りて少し基地周

辺を滑ってみました。すでにご承知のように基地周辺は全くだらでスキーに適した斜面は皆無です。しかしブリザードが作ったドリントが幾らかあり、無理やり滑走を試みましたが。結果は全く滑らず、つかえるような状態になりません。希薄な酸素で呼吸が苦しいや、くたびれるやら、つまらないやら、極寒のため、鼻の頭が痛くなるやらでいいことはほとんど感じませんでした。ちなみに今日の気温はマイナス64℃でした。結果をご想像ください。12月頃になったら、少しは暖かくなりますので今度は、スノーモービルで引いてもらい、滑走をやってみようかと思っています。幾らか楽しいかも知れません。

さて、任務の氷床掘削作業も孔が深くなって順調とは言えなくなってきました。今週中に深度2200mに到達見込みですが、掘削スピードがこれまでの半分以下にダウンしました。いろいろな予想してはなかったトラブルが続出しているからです。目標深度まで残り300mと言えども予断は許さず、緊張の連続となりつつあります。山仲間の

皆様からも「神頼み」をお願いしておきます。しかしながら、19日に掘削深度2165mを記録して、アメリカ隊がバード基地で記録した2164mを抜いて、ロシアのポストーク基地での3300m(正確な深度は不明)に次ぐ南極氷床での2番目の深度となりました。氷床掘削オリピックがあれば、銀メダルになります。まあ、焦らず落ちついて目標を目指す、と言うところでしようか。では次回まで。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736